

第3回第3次かほく市総合計画審議会

議 事 概 要

日 時：令和7年8月19日（火）9:55～11:25

場 所：かほく市役所2階 議会会議室

1. 開会
2. 審議案件について
 - ①第3次かほく市総合計画の骨子について
 - ②第3次かほく市総合計画「序論（案）」について
 - ③第3次かほく市総合計画「基本構想（概要）」について
 - ④今後のスケジュールについて
3. 事務連絡
4. 閉会

委 員 名 簿				
整理 番号	選出組織・団体	職	氏名	出欠
1	かほく市商工会	会長	南 春夫	出
2	石川かほく農業協同組合	代表理事専務	村井 一宏	欠
3	石川県立看護大学	教授兼附属図書館長 DX推進委員会委員長	小林 宏光	出
4	金沢学院大学附属高等学校	副校長	谷内 正樹	出
5	かほく市町会区長会連合会	会長	西田 省三	出
6	かほく市女性協議会	会長	松村 千恵	出
7	株式会社 北國銀行	公務部部長	山田 泰輔	出
8	金沢公共職業安定所	所長	今町 聡	出
9	株式会社 P F U	取締役常務執行役員	宮内 康範	出
10	かほく市社会福祉協議会	常務理事	越井 謙一	出
11	かほく市	副市長	竹本 重久	出

議 事 概 要

○各委員、●かほく市事務局

1. 開会

2. 審議案件について

①第3次かほく市総合計画の骨子について

②第3次かほく市総合計画「序論（案）」について

- ・事務局より、第3次かほく市総合計画の骨子について及び第3次かほく市総合計画「序論（案）」について、会議資料に沿って説明。

【質疑・意見交換等】

(委 員)

- ・高校生アンケートの中で、市内の高校生の7割が一定の定住意向を持っているとの説明があったが、この数値は他の自治体と比較して高いのか低いのか。

(事務局)

- ・いくつか他の自治体の類似のアンケート結果を確認したところ、やはりばらつきがあり3割程度の自治体もあれば、かほく市のように7割近い自治体もあった。サンプルが少ないので一概には言えないが、確認した中においては、7割という結果は比較的高いといえるのではないかと考えている。

(委 員)

- ・この高校生アンケートの結果以外でも、アンケート結果を施策に落とし込んでいく際には、やはり他と比較して、なぜかほく市の結果がよかったのか、悪かったのかという分析していく必要があるのではないかと考えており、計画の策定にあたり今後も情報の提供をお願いしたい。

(委 員)

- ・他の自治体と比較してというのは難しい面もあるかとは思いますが、市民アンケートの結果の解釈やその他の指標等の良し悪しの判断についても、一つ歯止めとして、ある意味客観性をもってということからも何らかの形で、比較検討する方がよいのではないかと考える。

(委 員)

- ・まちづくりの課題がどこの市町でも当てはまることが挙げられているという印象を受けた。事実、行政の課題はどこの市町においても似ている部分というのはあると思うが、アンケートの結果なども踏まえ、かほく市固有の課題のようなものを入れていくことができれば、課題にも特色が出るし、その後の施策にも、かほく市として何をすべきかというところにつながっていくのではないと思う。

(委 員)

- ・まちづくりの課題において、(2)に「人口減少」とあるが、ここに違和感がある。将来的なリスクはあるにせよ、かほく市は現在人口が増えて頑張っている自治体なので、そこをネガ

ティブに課題として捉える必要はないのではないか。

(委員)

- ・決して今後もずっと人口増加が続いていくというような楽観的な捉え方ではなく、人口減少の時代にあって、近年人口増加が続いているというのはかほく市の特異な点でもあるので、この点なんかも計画内に盛り込めないかという意見である。

(委員)

- ・かほく市全体としては人口減少という言葉は当てはまらないかもしれないが、市内の地域ごとに見た場合、特に農村山間地においては急激な人口減少が起こっている。私の地区では、10年前は500人ほどの人口であったが、この10年で350人まで減ってしまった。このような局所的な人口減少も課題として捉える必要があるのではないか。

(委員)

- ・まちづくりの課題のひとつに「産業振興の強化」が挙げられているが、近年高松のPFUのProDeSセンターの周辺に大きな工場の建設がいくつも進んでいるが、かほく市として今後企業誘致に対し、どのようなスタンスで臨んでいくのか教えてほしい。

(事務局)

- ・市内企業を支援するということがまずは前提としてあるが、さらに市外から企業に来てもらえるよう、企業誘致に対しても力を入れてきているところである。ただし、昨今の物価高や海外の情勢もあり、新規の工場建設等に関し、企業側の動きが若干鈍くなっていると感じている。ただ、市としても現状に手をこまねいているばかりではなく、攻めの姿勢で企業誘致に取り組んでいく必要があると考えている。

(委員)

- ・同じくまちづくりの課題の「産業振興の強化」について、商工業、農林水産業の人手不足には触れられているが、福祉分野においても、人手不足が起こっており外国人雇用も増えてきている状況であるので、そういった福祉部門の人手不足にも言及していただきたい。

(委員)

- ・企業誘致に関して、工場だけ建てて従業員を現地で採用すると、すでに働いている人が移動するだけで、ただ人の取り合いとなり、地域としては人手不足に拍車がかかるということにもなりえる。工場と従業員がセットで移転してくる形での企業誘致を推進すれば、従業員とその家族が新たに市内へ引っ越してくることで人口増加にもつながり、またその従業員の家族が市内の別の企業で就職すれば人手不足の解消にもつながっていくので、そのような形の企業誘致も実現できればよいのではないか。

(委員)

- ・まちづくりの課題で、「震災からの復興」ということで能登半島地震について触れられているが、今後地域防災計画の見直しや、物資、機材等の備蓄の改善ということは考えているのか。

(事務局)

- ・地域防災計画の見直しは、総合計画の策定とは別途でこの秋から取組むこととしている。

(委員)

- ・空き家対策について、空き家の持ち主に連絡が取れない場合、劣化が進み今にも崩壊しそうなものや、害虫が発生し周囲の環境悪化につながるもの、また防犯上危険であるものなど、現実には様々な問題が発生してきている。法的な問題があり、市としても取り組みにくいものであるかもしれないが、何かよい対応策はないか。

(事務局)

- ・委員ご指摘の通り、空き家対策は法的な手続きが非常に複雑で、ひとつひとつその法的な問題を解決していかないと、適正な空き家の管理や除却ということはできない。市としても第三者の方からの助言をいただきながら、空き家対策を実施している状況である。総合計画においても、実行性のある空き家対策をしっかりと盛り込み、防災環境対策課が実際に実施する空き家対策と連携できるものを考慮していかななくてはいけないと考えている。

(委員)

- ・空き家にも様々な状態のものがあるが、特に今問題にあがったのは、廃墟に近い空き家であろうと思う。このような空き家は景観を大変損ね、治安の悪化にもつながるなど、街が荒んでいる印象をあたえる。コンパクトで美しい街というものを考えた時に、廃墟に近い空き家は大きな問題となると考えられるので、法的な問題などは国にも対応を求めていくことも必要であると考えられる。

(委員)

- ・市民アンケートの結果において、「公共交通の利便性」が重要度は高いが、満足度が低い。市内には市営バスや福祉巡回バス、イオンバスなんかも走っているが、なかなか利便性がよくなく、看護大学生が国道沿いを歩いて登校しているという話や、今後高齢者の免許返納ということになればますます公共交通の重要性は増していくと考えられる。福祉巡回バスを今は運行していない大海地区にも広げるなど、公共交通の利便性を高める施策を検討してほしい。

(事務局)

- ・市内の公共交通については、現在はなんとか運営できているが、今後10年、20年先を見据えるとさまざまな問題が出てくるであろうということは認識しており、市にとっての重要な課題として捉えている。

(委員)

- ・イオンバスは人がよく乗っているのを見かけるが、市の福祉巡回バスは誰も乗っていないのに運行しておりもったいないと感ずることがある。女性協議会の市政座談会でも公共交通が話題にあがったことがあり、大海地区の方で困っている方がいらっしゃるという話を聞いたこともある。ぜひ公共交通の利便性をあげる取組を進めてほしい。

(委員)

- ・公共交通の話に補足となるが、高齢者が免許を返納してタクシーを使おうとすると、今度は

タクシーが不足していて、呼んでもなかなか来てもらえない、炎天下の中で30分も1時間も待ったという話を時々聞いたり見たりすることがある。自家用車に代わる手段のタクシーもこのような状況である。

- ・現在大海地区を走っているバスと、宇ノ気や七塚を走っているバスはなぜ運用の仕方が違うのか。すべてのバスが回数券を使わなくても乗ることはできないのか。

(事務局)

- ・市の現状を申し上げますと、市内の広範囲を走っているバスは福祉巡回バスといい、こちらは福祉サービスとして無料で運行を行っている。一方大海地区や看護大へ向かって走っているバスは市営バスといい、こちらが公共交通の分野で、乗客から運賃をいただきながら運行をおこなっており、市内にはこれらが入り乱れている状況となっている。先ほど事務局から申しましたように、この状況をほったらかしにしておくことはもうできないだろうということは十分に認識しており、今後様々な角度から公共交通については検討を進めて参りたいと考えている。本日多くの委員の皆様から公共交通の分野についてご意見をいただきましたので、このまちづくりの課題の中に何らかの形で盛り込むことができないか検討したい。

③第3次かほく市総合計画「基本構想（概要）」について

・事務局より、第3次かほく市総合計画「基本構想（概要）」について、会議資料に沿って説明。

【質疑・意見交換等】

(会 長)

- ・本日は基本理念について特に委員の皆様に意見をいただきたいと思う。

(委 員)

- ・理念の冒頭「海とみどりに抱かれた、」の「抱かれた」のよみは「いだかれた」でよかったか。前に聞いた際に「だかれた」と言われたこともあったが。

(事務局)

- ・読み方は「いだかれた」である。

(委 員)

- ・「だかれた」であると肩を抱くのように、具体的に手を伸ばすイメージであり、「いだかれた」は「大志を抱け」のように、もっと抽象的なイメージで、海とみどりは直接手を伸ばすものではないので「いだかれた」と誤解のないように読まれるようにひらがなで表記するのもひとつではないかと思う。

(委 員)

- ・市民憲章の文言が基本理念に入っているということも含めて、「海とみどりに抱かれた、魅力と活力あふれるまち〜ひと・まちを守り育て、みんなが住み続けたいまち〜」という案をたたき台として提案する。

(委 員)

- ・事務局のキーワードの候補とは別のベクトルとして、「成長」のようなものはどうか。総合計画は10年間の計画であるので、その間に想像もしなかったことが起こったり、しかしその変化に対応して成長していくという意味や、上に上がっていくというイメージの言葉がキーワードになってもよいかと思う。「成長」という言葉であれば、個人、子ども、企業、それからかほく市全体などすべてにつながる言葉として使えるのではないかな。

(委 員)

- ・基本理念を考えるうえで、例えば子育てしやすいなど、身近な「生活」に関することとするか、または働く場所をつくるなど地域の「産業」や「賑わい」に関することにするかなど、いくつかベクトルがあると思う。

(委 員)

- ・「海とみどりに抱かれた、」と「海」が基本理念の最初にくる割には、かほく市では海に関する事業が少ないのではないかと感じる。海浜清掃や、年に数回の子ども地引網くらいが市民が海に関わる機会かと思うので、基本理念の冒頭にくるのであれば、市民がしっかりと海と関われるようなイベントがあってもよいのではないかなと思う。

(委 員)

- ・キーワードの候補に「安心・安全」が挙げられており、アンケート結果も防災を強く意識したものではあった。「災害に強い街」のように理念に組み込むことも考えられるが、総合計画は10年間の長期の計画であるので、必ずしも災害に関するワードを用いて、被災地であるということを全面的に押し出す必要はないのではないかなと思うがいかがであるか。

(委 員)

- ・個別にフォーカスするよりも、総合計画は全体的なところを見据えて作っていった方がよいと思うので、安心・安全という言葉を実践に持ってくるのはどうかなと感じる。

(委 員)

- ・決して復旧復興や災害対応を軽んじるわけではないが、基本理念に組み込むのかということは検討する必要がある。

(委 員)

- ・さきほど意見があがった「成長」というキーワードは私もよいと思う。何にも成長ということがつながっていくので、成長するというニュアンスのワードを基本理念に入れてはどうか。

④今後のスケジュールについて

- ・事務局より、今後のスケジュールについて、会議資料に沿って説明。

【質疑・意見交換等】

(会 長)

- ・事務局からは、パブリックコメント実施後の修正が微修正であった場合には、その後の作業は私と事務局に一任いただければとの提案であったが、委員の皆様はご了解いただけるか。

(委員一同)

- ・異議なし

(会 長)

- ・ありがとうございます。根本的な方針の変更等があった場合には、改めて委員の皆様へご相談し、軽微な修正であった場合も、その修正点等は事務局から委員へ報告することとする。

3. 事務連絡

4. 閉会

以上